



## 丹沢おぼえがき (10)

### 明治・大正期の登山事情 (その2)

砂田 定夫

#### ④交通

丹沢の北側から入山して主脈を縦走する場合は、国鉄中央本線（官設鉄道と呼ばれた。前身は甲武鉄道）の與瀬駅（現在の相模湖駅）か上野原駅を起点として、道志川の青根、月夜野、長野などまで歩いて前泊し、焼山から主脈を縦走した。塔ノ岳からは大倉尾根を下り大倉へ出て、東海道本線（当時、現在は御殿場線）の松田駅まで足を延ばすことが多かったようだ。南側から入山する場合、湘南馬車鉄道が1906（明治39）年8月に開通（二宮～秦野間）していたので、それ以降の丹沢登山者はこれをよく利用している。この馬車鉄道は、1913（大正2）年、利用者増により蒸気機関車に変更され、「湘南軽便鉄道」と改称された。1918（大正7）年には経営難で一時休止、その後経営移管されて「湘南軌道」となった。開業当時の乗車賃は二宮～秦野間往復18銭、片道10銭だったが、明治40年には往復24銭、片道13銭に値上げされた。この交通機関は、秦野自動車（乗合）営業開始と小田急開通によって採算が取れなくなり、昭和12年廃業となった。

玄倉川からの入山では、当時は東海道本線の山北駅が起点となっている。南面では、秦野に前泊して直接大倉尾根を登るのが最短コースとして知られていたが、武田久吉らは旧ヤビツ峠を越えて、一旦札掛へ出て長尾尾根を登ったりしている。

#### ⑤案内人

明治・大正時代に先蹤者たちが丹沢の山々に分け入ったときは、いうまでもなく道標はなく、登山記録や情報もほとんど得られず、参謀本部

陸地測量部（国土地理院の前身）の2万分の1地形図と磁石だけを頼りにするだけだったので、現地の事情を知っている案内人が必要だった。案内人には猟師や木こり、あるいは駒鳥捕りが考えられたが、実際には猟師が多かった。1905年の武田、高野鷹蔵らは玄倉の猟師の鈴木新次郎を、1913年の武田らは木こりの城所鐵五郎、1918年の戸澤英一、藤島敏男パーティは玄倉川の熊木にあった製板所に働く猟師の山本甚蔵を案内人として雇っている。その時の賃金は1円20銭だったという。

#### ⑥地形図

武田は1940年に山と溪谷社が主催した「丹沢座談会」の中で、陸地測量部の20万分の1縮製図があてにならないが、5万と2万は役立ったと話している。当時、道標も山名表示もなく、山頂や山稜で目にした人工物といえば、修験の行場を偲ばせる石仏などぐらいだった。陸地測量部による丹沢山、塔ノ岳、大群山、蛭ヶ岳などの三角点設置が1885～1886年に行われているので、これらの山頂では三角点や櫓を目にしたことだろう。

#### ⑦駒鳥捕りのこと

当時の記録にしばしば主脈縦走路で駒鳥捕りに出会ったり、その仕掛けや彼らの仮小屋らしいものを見かけている。岡野金次郎が最初に塔ノ岳に登ったときは、駒鳥捕りが案内した。武田らは塔ノ岳と丹沢山の間で駒鳥捕り数人に出会っており、戸澤・藤島パーティも丹沢山と塔ノ岳間で駒鳥捕り用の仕掛けを見ている。梅沢親光は「至る所小鳥が多く、不動ノ峰付近の駒鳥なんかうるさいほどだ」と書くほどで、たくさん生息していたのだろう。1羽70銭くらいが相場だったというから、かなりの収入源だったと言える。因みに、当時の1円は現在の金額に換算すると9000円くらいである。

なおこの時代、西丹沢の檜洞丸や畔ヶ丸などは、なお秘峰として残されていたのである。



(丹沢の近代登山史は、さらに大正末期から昭和時代へと続きますが、「丹沢おぼえがき」の連載は、今回で一旦終了させていただきます)

写真の説明かつて塔ノ岳にあった尊仏岩(奥野幸道『丹沢今昔』より)

編集部より  
砂田様長期にわたり投稿ありがとうございます。次号より和田誠様の「丹沢周辺の渡来人の足跡」を掲載予定です。



### 砂田定夫さん、登山史の書籍を上梓

神奈川支部報で「丹沢おぼえ書き」を連載している砂田定夫さんが「山あれば人あり―登山史に躍動した人びと」を上梓した。長い間にわたって取り組んでこられた登山史の研究を一冊の本にまとめたもので250頁の大作です。本書は、小谷部全助と北条理一の「登攀者たちの軌跡を追う」、小島烏水と岡部金次郎、木暮理太郎と田部重治の二組の交友をまとめた「先駆者たちの交友をめぐって」、時代ごとの登山史の意義を綴った「登山史の狭間で」、秩父と丹沢の登山の歴史についてまとめた「山なみは語る」の4部構成になっていて、最初から通して読まなくても興味のある部分から読んでも引き込まれます。

登山史というと初登攀を成し遂げたタクティクスや人物に脚光を浴びる内容が多いと思われませんが、砂田さんが取り上げている人物は、東京商科大の小谷部全助、関西の庶民派クライマーで前穂高のルートに名を残す北条理一、究極は記録の偽造を疑われた吉田二郎など今まであまり取り上げられなかった人物でたいへん興味深く読ませてくださいました。

特に結核を病んで療養所で最後の時を迎える全助の様子をつづった姉の日記は、全助の登山家以外の一面が見えて「人物が浮き彫りにされてこそ登山史」という砂田さんの意思がよく出ている内容であると思います。登山という趣味の世界にも歴史があり、その時代時代に真剣に生きているという臨場感を感じながら読めます。

一方、4章の丹沢登山文化小史は山伏達の時代から小田急開通により登山者が急増する時代、そして遭難多発、丹沢から谷川への沢登りブームなど神奈川の山としての丹沢の歴史を改めて認識させられます。そして、変わりゆく丹沢の姿に最後に砂田さんが結んでいる「登山者として何ができるだろうか」という言葉は丹沢をホームグラウンドにする神奈川支部にとっても重い命題だと感じます。

支部会員の皆様もコロナ禍の中、自宅で過ごす時間も多くなっていると思います。是非読んでいただき、あらためて山を身近に感じていただけたらと思います。(長島)



A5判 250頁 発行 日本山岳文化学会 頒価 2000円(送料込み)

希望者は直接著者へ申し込んでください。

メール：[sunada-ckn@tbz.t-com.ne.jp](mailto:sunada-ckn@tbz.t-com.ne.jp) TEL：042-755-8721

## コロナ禍における支部

昨年から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、日常生活のみならず神奈川支部の活動にも大きな影響を与えました。一時は減少しているかに見えた感染者は減るどころか、強力な感染力をもつ変異ウィルス感染の拡大と相俟って増加傾向を示していて、感染の第4波も危惧される状況となっています。4月にはいつて早々、大阪、兵庫、宮城では「まん延防止等重点措置」が適用されるなど、感染収束は今のところ先が見えません。ワクチン接種による鎮静化を願うばかりです。

このような状況下での支部活動は当然大きく制限されざるを得ず、昨年来、各種支部行事が軒並み延期や中止になったのもやむを得ないことでした。神奈川は全国的に見て感染者数が圧倒的に多い首都圏の支部であることを強く意識して、会員の皆様が山行においてだけでなく、日々の生活においても各自慎重な行動をとっていただくことをお願い申し上げます。最も重要なことは、支部会員の中に感染者を出さないことです。私が現在非常勤で行っている厚木市の大学でも、教職員の行動規範が定められていて「感染しない、させない」の徹底を図っています。山だけではありませんが、マスク着用、換気、手指の消毒、人との距離、人数制限など何かと制約が多く、そのうえ収束時期が不透明なため、一層ストレスの募る毎日となっています。しかし私は近い将来、今までのように自由に山旅を楽しむことのできる生活が必ずや戻ってくると信じています。それまでしばらくの辛抱です。山はそこにあり続けます。そして私達を今までどおり温かく迎えてくれるはずです。(込田伸夫)

## 神奈川支部、県岳連に加盟！

神奈川支部はかねてから検討していた神奈川県山岳連盟に加入することを決定し、3月の県岳連理事会で加盟が承認されました。3月の県岳連役員会から2名で参加しています。

背景について込田支部長からひと言いただきました。

このたび神奈川支部は、神奈川県山岳連盟へ加盟する運びとなりました。神奈川県岳連は登山教室やクライミング、自然保護活動、各種山

岳スポーツの企画・運営、山岳文化研究、海外登山などの活動を行っており、2020年時点で神奈川県内62の山岳団体が加盟しています。神奈川県を活動の中心としている神奈川支部としては、加盟によって人的交流も含めて、より充実した山岳活動が可能になると同時に、社会貢献の一環としても山に親しむ活動の普及、ならびに発展に一層寄与できるものと判断致しました。加盟の位置づけは、神奈川県岳連の規約により「県内を代表する山岳スポーツ団体」としての登録となり、神奈川支部からは理事及び代議員を各2名選出しています。今後は神奈川県岳連との共催行事に協力していくこととなりますが、豊富な人材を擁する神奈川支部として、会員皆様の積極的なご協力をお願いする次第です。(込田伸夫)

## 山岳古道プロジェクト始動

皆さんもホームページ等でご存知のとおり日本山岳会では創立120年記念事業の一つとして後世に残す山岳古道120古道を選出調査し、その成果を公表することにしています。これは全国33支部をはじめ多くの会員が本支部間の垣根を越えて調査に参加し、地元、地元研究者等の協力を仰ぎながら2025年の発表を目指すものです。神奈川支部としては、畿内と東国を結ぶ奈良時代から江戸時代に利用されていた主要古道数件と江戸時代の丹沢大山を中心とする修験者の行者道を、また、支部内外の会員からも県内の古道数件が推薦されています。推薦古道の中には他支部との共同調査が必要なものもあり、中には既に支部以外の会員からも調査に加わりたいとの話も来ています。4月10日には第1回全国山岳古道会議が招集されており、200件程集まった推薦古道から調査古道への絞り込みと調査が並行して開始されるとのこと、支部における活動もいよいよスタートとなります。神奈川支部の古道担当は砂田会員のご指導を得ながら葉上が務めることになりました。古道の調査は、机上文献調査から地元、有識者への聞き取り、また実地調査、支部間調整まで幅広く、多くの支部会員の参加協力が必要になると思われます。神奈川支部としても新年度早々準備に取り掛かり、支部古道PTを立ち上げ約3年間の調査作業を進めていくことになると思いますが、日本山岳

会120年記念事業に相応しく、また「かながわ山岳誌」に続く実りあるプロジェクトにした  
いものです。また本プロジェクトの進捗状況は  
支部報にて随時報告していく予定です。(担当  
/葉上徹郎)

延々三ヶ木まで約6km歩きバスで橋本駅に  
至る。

<参加者>永井泰樹、森武昭、砂田定夫、葉上  
徹郎、中島良行、関口由美子、田島剛(記)

## 神奈川支部梶正彦氏、紺綬褒章受賞

神奈川支部会員である梶正彦氏が公益団  
体に多額の寄付をしていただいた功績で、紺綬褒  
章を受賞されました。

詳細は「山」2020-12 参照

## 山行報告

### かながわ山岳誌 Hコース

#### 柏原ノ頭

令和2年12月19日  
コース概略 橋本駅～鳥屋～(旧)宮ヶ瀬コッ  
コパーク～柏原ノ頭～風巻ノ頭～寺入沢林道  
～青野原～三ヶ木～橋本駅

12月下旬の鳥屋は霜が降り寒い。林道を西  
へ旧コッコパークまで歩き、古い道標に沿って  
焼山方面への植林帯へ入る。緩やかな登山道を  
柏原ノ頭分岐まで行く。ここから急斜面を登り  
尾根伝いに三角点のある柏原ノ頭へ進む。頂上  
は東側の展望が良い。



↑ 柏原の頭

そのまま尾根を北に下ると、急な斜面が出て  
躊躇する。大岩を過ぎ、やっと緩やかな尾根に  
出て、寺入沢林道へ降りる。青野原BS停から



↑ 風巻の頭

## 役員会報告

### 1月役員会

日時: 令和3年1月21日(木): 19:00～20:00

場所: 各自の居場所(オンラインテレビ会議)

参加者: 込田支部長、大槻副支部長、早川副支  
部部長、永井事務局長、森、青木、落合、  
長島、田島、植木、葉上、渡辺

委任状による出席: 廣岡、田中、柴山

[報告事項]

(1) 案内連絡: 2/6・2/7に開催される第10  
回指導者育成講習会への参加を募ったと  
ころ、3名の申し込みがあった。

(2) 山行報告:

12/19 山岳誌プロジェクトHコース柏原ノ  
頭～風巻

1/9 山岳誌プロジェクトLコース枳形山:。

1/23Hコース白銀山: 中止

[審議事項]

(1) 山行計画

2/13のLコースの山行中止

2/27のHコースの山行は状況を見て判断

2月末に赤倉スキー・スノーシュは中止

支部総会のため5/22に県民センター会議

室を予約

5/1 自然観察会を開催予定(担当:渡辺)。  
2/27 に山岳誌プロジェクトHコース、た  
白銀山を計画。コースは箱根湯本駅=(バ  
ス)～発電所前BS～白銀山～三所山～箱  
根湯本駅とする。

(2) その他

- ・ウインドブレイカーの購入に関して、業者との打ち合わせ内容、見積などについて説明。50着で約15万円程度。
- ・次年度の支部予算書を提出した。
- ・次年度の支部事業計画書の原案の説明。1/31 締め切り。
- ・今年度の本部への会計報告の締め切りは3/31。書式は昨年度と同じ。会計担当が原案を作成し、次回審議。
- ・全国山岳古道調査の支部から本部への提案締め切りは3月末。現時点で8コースの提案あり。また、本部から依頼がきている本件の支部担当者の選任は支部長と事務局長で人選を調整。

## 2月役員会

日時:令和3年2月17日(水):19:00～20:20

場所:各自の居場所(オンラインテレビ会議)

参加者:込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、青木、落合、長島、田島、廣岡、葉上、渡辺、田中  
監事:砂田、富岡  
委任状による出席:植木、柴山

[報告事項]

- (1) 第10回指導者育成講習会案内  
2月13・14日の開催を予定していたがコロナ禍のため4月3・4日に変更となった。改めてメールで支部会員に周知し、参加募集を行うことに
- (2) 山行報告  
1/23(山岳誌H)、2/13(山岳誌L)、2/27(山岳誌H)は、コロナ感染防止の緊急事態宣言が発出されたため、すべて中止となった。

[審議事項]

- (1) 年間計画  
・3/13の山岳誌プロジェクトLコースの山行は中止にする。
- (2) 山行計画:

・3/27に山岳誌プロジェクトHコースとして、上野原駅=(富士急バス)奥牧野～大平山(40)～網子峠～入道山(182)～平野峠～平野山(210)～天神峠～舟山(221)～峰山(255)～やまなみ温泉BS=(神奈中バス)藤野駅を実施予定。参加募集は3月になってコロナの感染状況を考慮して決定する。

(3) その他

- ・ウインドブレイカーの購入に関して、業者と交渉した結果、今年度予算で40着(96,800円)、来年度予算で10着(19,800円)を購入したいとの提案があり、承認された。
- ・本部からの「今年度中止となった公益事業報告」に関して、該当する3件を報告した旨の説明があった。
- ・神奈川県山岳連盟への加入手続きが完了したことが報告された。
- ・永井と青木より、支部会計の中間報告と本部からの支部交付金の使用状況の説明があった。交付金の残額が15,370円あるが、乾電池やプリンター用インクなどの消耗品を購入することにした(担当:永井)。
- ・かながわ山岳誌プロジェクトの進捗状況と今後の踏査の見通しについて説明があった。Hコースに関しては、原則として第4土曜日に実施してきたが、今後はリーダーの都合や天候などを勘案して日程を組んでいくことにした。
- ・込田より、本部から要請のあった全国山岳古道調査の当支部担当者として、葉上と砂田に依頼し、両者からの了解を得た旨の報告があった。

## 3月役員会

日時:令和3年3月18日(木):19:00～20:35

場所:各自の居場所(オンラインテレビ会議)

参加者:込田支部長、大槻副支部長、早川副支部長、永井事務局長、森、青木、落合、長島、廣岡、葉上  
監事:砂田  
委任状による出席:田中、田島、渡辺、植木、柴山

[報告事項]

- (1) 第10回指導者育成講習会  
参加募集の結果、当支部からは、石川千嘉、中山茂樹の2会員から応募の申し込みがあった。
- (2) 山行報告  
2/27(山岳誌H)、3/13(山岳誌L)は、コロナ感染防止の緊急事態宣言が発出されたため、すべて中止とした。
- (3) その他  
・ウインドブレイカーの購入が完了。支払いは年度をまたいで2回に分けて振り込むことになっている。  
・正式加入した県岳連の理事会が3/2にオンラインで開催され、永井が初めて出席した。

[審議事項]

- (1) 年間計画  
・緊急事態宣言が3/21に解除される見通しで、感染防止に努めることを前提に山行を再開することにした。
- (2) 山行計画：  
・3/27に山岳誌プロジェクトHコースとして、上野原駅=（富士急バス）奥牧野～大平山(40)～綱子峠～入道山(182)～平野峠～平野山(210)～天神峠～舟山(221)～峰山(255)～やまなみ温泉BS=（神奈中バス）藤野駅を実施予定。  
・4/10に山岳誌プロジェクトLコースとして、相模湖駅=プレジャーフォレストBS～嵐山(11)～相模湖公園～相模湖駅を実施予定。  
・5/1に相模川左岸を散策する自然観察会を実施予定。案内役は渡辺が担当。
- (3) その他  
・かながわ山岳誌プロジェクトの報告書作成の進捗状況について報告があった。  
・支部会計報告案の説明があった。支部交付金の残額約3千円でプリンタ用のインクを購入することにした  
・支部総会について：日程は5/22(土)15時から。場所は県民センター会議室を予定。ただし収容人数は20名程度なので、オンラインとの併用を予定。総会前の講演会は実施しないことにし

た。他の行事と調整中で変更あり。

- ・南関東三支部合同山行は、10/30(土)に藤野駅南の日連アルプスや高倉山を予定。
- ・監事による監査は、3/26または3/30に開催予定。
- ・本部古道プロジェクト支部担当者会議が4/10(土)にオンラインで開催されること及び支部内の動き説明。

今後の予定

役員会

- 4月15日(木)19時～  
5月17日(木)19時～  
6月18日(金)19時～  
於：神奈川県民センター

総会

5月22日 15時～

於：神奈川県民センター

注)他の行事と調整中で翌週になる場合あり。  
決まり次第別途連絡します。

山行計画

かながわ山岳誌プロジェクト

日時：4月10日(土)

場所：嵐山(Lコース)

相模湖駅=プレジャーフォレストBS～相模嵐山(11)～相模湖公園～相模湖駅

担当：森

自然観察会

日時：5月1日(土)

場所：相模川自然観察会

本厚木駅～有鹿神社～三川公園～座架依橋付近(昼食：1時間)～磯部(芝桜、大風)～猿ヶ島(磯部頭首工)～三段の滝～相模線下溝駅

担当：渡辺

支部会員動静

《転出》 15332 直 広明 (京都・滋賀支部へ)

《支部退会》

15901 畠山政大(JAC退会)

16341 鎌田典子(JAC退会)

## かながわ山岳誌プロジェクト中間報告（2020年度末）

プロジェクトチームリーダー：森 武昭

2017年度からスタートしたかながわ山岳誌プロジェクトの踏査活動は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、今年度（2020年度）は表からも分かるように予定の半分しか実施できなかった。

表 年度別踏査情報（当初計画：コース数 80、踏査点数 282）

年度	コース数	踏査点数	追加した踏査点	参加者数(延べ)
2017	16	65	18	128
2018	18	64	11	166
2019	15	44	13	157
2020	8	24	8	71
合計	57	197	50	522
踏査率	71%	70%		

踏査は当初計画していたコース数・踏査点数ともに約70%を終えたところである。しかし、残りについては、登山道があるのか不明、交通事情が悪い、ロングコース（場合によっては1泊を要する）など、かなり厳しいコースが多数含まれている。また、一昨年台風19号の被害で登山道が閉鎖されていて、大きく迂回することを余儀なくされる箇所もある。幹事間では、山小屋の利用、自家用車の使用など考慮して、出来得れば2022年度までに踏査を終えたいと願っているが、コロナの感染状況次第である。

一方、最終報告書は何らかの形で印刷物としての出版を計画している。現時点での目次案は下記の通りであり、第2章に関しては原稿がすでに著者から提出されいて編集作業に取り組んでいる段階である。第3章は踏査記録だけでなく、地元の歴史・文化財の紹介などの文化情報を盛り込む予定である。プロジェクトチームでは作業を加速化したいと思っているが、これらの方向性に支部会員の皆様からご意見いただければ幸いである。

### かながわ山岳誌プロジェクト報告書目次（案）（A5版横書き2段組）

まえがき

#### 第1章 概要

- (1) 目的
- (2) 対象とした山（ピーク）と峠：踏査ポイント
- (3) 踏査コースの設定
- (4) 踏査実施概要

#### 第2章 神奈川県山岳地の特徴

- (1) 地形・地質からみた特徴：平田 大二（県立生命の星・生命博物館館長）
- (2) 気象からみた特徴：猪熊 隆之（気象予報士、(株)ヤマテン社長）
- (3) 植生からみた特徴：勝山 輝男（県立生命の星・地球博物館館元学芸部長）
- (4) 生息動物からみた特徴：山口 喜盛（県立生命の星・地球博物館外来研究員）
- (5) 山岳宗教からみた特徴：鈴木正崇（慶應義塾大学名誉教授）
- (6) 山名・峠名の特徴：砂田 定夫
- (7) 山名・峠名の由来：砂田 定夫

#### 第3章 踏査報告と考察

- (1) 東丹沢地域：厚木、伊勢原、大山、上溝
- (2) 西丹沢通域：駿河小山、中川、山北
- (3) 北丹沢地域：青野原、大室山、御正体山

- (4) 箱根地域：御殿場、関本、箱根
- (5) 鎌倉・三浦半島地域：浦賀、鎌倉、戸塚、三浦三崎、横須賀
- (6) 湘南地域：小田原南部、小田原北部、秦野、平塚
- (7) 県北地域：五日市、与瀬
- (8) その他の地域（横浜・川崎地域）：原町田、溝口

#### 第4章 まとめ

索引（50音順・標高順、その他）

その他に山行報告書をDVDで配付するかHPに掲載する予定。

## あとがき

山岳誌PJで県北西部の藤野地区を探索する機会が多くなり、地域の人々の観光・芸術・自然保護への取り組みに心寄せられる。例えば、藤野町十五名山の選定、緑のラブレターに代表される自然芸術作品の設置、石砂山の県指定天然記念物のギフチョウやカンアオイの保護など。十五名山の内、雛鶴姫の伝承が残る峰山が好きだ。下山後は、藤野駅前の食堂「風里」で反省会をするのが一番の楽しみかな？（た）

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎

令和3年4月1日